新たなたたかい目指して

石炭産業を守り生活守る政策を

参議院副議長　阿具根　登

昭和六十一年の年頭にあたり、三池労組の仲間の皆さんとご家族の皆さまに謹んでごあいさつ申し上げます。

旧年中は格別のご支援・ご鞭撻をいただき、ありがとうございました。本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年をかえり見まると、炭鉱労働者をとりまく諸情勢はきびしく、さらに高島・南大夕張炭鉱で大きな坑内惨事もあった年でしたが、三池労組にとって三池闘争二十五周年という記念すべき年でもありました。

本年は昨年からの悪条件が重なり、国内石炭産業にとり一層きびしい年になりそうですが、第七次石炭政策の最後の年であると同時に第八次石炭政策を決定する重要な年でもあります。

私は日本の唯一の国内エネルギー源である石炭産業を守り育てることが、炭鉱の仲間のいのちを守り、生活を保証することになると確信しております。そのために、三池労組をはじめとする炭鉱の仲間は、この目的を達成するだけでも、すべての炭鉱労働者の力を結集して、一致団結し、対処されることを期待します。

私も第八次石炭政策を三池労組の仲間をはじめとする炭鉱労働者のすべてのいのちと生活を守る政策にさせるため、先頭に立って全力をあげることをお約束申し上げ年頭のあいさつといたします。

＊　＊

躍動する21世紀めざす県づくりを

福岡県知事　奥田八二

みなさん、あけましておめでとうございます。

県民党知事として県政ひとすじの日々のなかで、三回目の正月を迎えました。知事に就任して以来、数多くの県民のみなさんとの対話を心がけてまいりました。

最近では、県民のみなさんにも県政が身近なものになり、新しい県政が始まったと実感していただけるようになったのではないでしょうか。

私は今、二十一世紀をめざす福岡県の新長期計画の策定を進めています。二十一世紀への道は、高齢化、ハイテク化、情報化の波をうけて、県民生活は大きく変化していくことでしょう。また、婦人問題、産炭地の振興や先端技術の開発、企業の誘致など、福岡県の活性化をめざした諸課題にとりくみ、躍動する県づくりに向けて、力強い第一歩を踏みだす年でもあります。

今年は、国際連合が提唱する国際平和年です。地方の国際化または国際交流を基礎にしてこそ、平和が確保できると信じています。

かぎりない希望に輝く二十一世紀へ向け、今、新たな躍動を始めようとするふるさと福岡県のために、知事として全力を尽くすことを心に誓うとともに、県民のみなさんにとって、今年もまた平和で幸せに満ちたよい年でありますよう、心から祈念して新年のごあいさつといたします。

＊　＊

CO和解闘争の一年をめざして

三池CO裁判弁護団団長　佐伯静治

三池労組の皆さん、家族・遺族の皆さん、明けましておめでとうございます。はるか東京から年頭のごあいさつを皆さんにお送りします。

多事だった一九八五年も、大争議二十五周年ということで『三池闘争の記録』の刊行と、交流集会を成功させることで、一年をしめくくりました。

私もこの行事に参加しながら、あれこれと感慨にふけったことでした。なかでも心を痛めたのは、かつて争議を最後まで団結してたたかった人たちが、いま必ずしも全部が心から団結していないということです。

いうまでもなくCO裁判の和解をめぐっての不一致のことです。もう一度心から手を結びあえる日が早くくることを心から期待しています。

和解の席につくかどうかをめぐって揺れに揺れたその和解も、昨年十一月からようやく本題に入りました。したがって今年は、最大限有利な和解をかちとるための一年ということにしなければなりません。

和解の席につくかどうかの不一致はいわば味方内の不一致でしたが、これからはもともと対立、不一致の相手との間で、最大限に有利な和解条件を合意させようということですから、そのむずかしさ苦しさはいままでの比ではないでしょう。それでも勝ちぬかなければなりません。皆さんと手を組みあってその決意を新たにしましょう。

＊　＊

生命と健康守るCO闘争の歴史を

東京都立松沢病院副院長　金子嗣郎

一九八六年の新春のお祝いを申し上げます。

今年はCO裁判の和解を中心に、ある意味では大きな転換の年であると思います。三川大災害から二十三年、ここまでねばりづよくたたかってこられた三池労組、被災者、遺族、家族の皆さんに敬意を表します。

全国的な労働運動の退潮・低調の中で、三池闘争・CO闘争の原点にある反合理化、生命と健康を守る視点を再確認し、全国の働く仲間たちに広げ、その運動を強化していくことが三池労組を核にした皆さんの歴史的役割りであると思います。

長いたたかいの中でいろいろと意見の違いも出てくるかもしれませんが、原点を確認すれば小異のために統一と団結が乱されることもないのではないかと思います。

この数年、多くの労働組合の依頼で労災・職業病の相談、意見書のまとめ、講演などをしてきました。とくに私の専門である精神神経疾患が大きくクローズ・アップされてきており、新しい労働環境の下での労働条件のために、どのようにたたかうかが問題となってきています。

生命と健康を守るたたかいの原点である反合理化精神を忘れて、物取りに流れてしまうことがあります。そのとき私は、三池CO闘争の歴史を私の知る範囲で話すことにしています。

全国の働く人びとのために三池のCO闘争の歴史を伝え、広げることは重要だと思います。

頑張ってください。

平和と民主主義生活を守ろう

組合長　中原一

あけましておめでとうございます。

新しい年を迎え組合員・主婦会・退職協のみなさまへごあいさつを申し上げます。

昨年は、炭鉱労働者とその家族にとってきわめて厳しい年でした。

昨年四月の三菱高島炭鉱災害、五月の南大夕張炭鉱災害と重大災害が相次ぎ、石炭産業に対する社会的批判も強まり、加えて賃金、期末手当、退職金などの労働諸条件も第七次石炭政策の中では労働者の労働条件の改善が政策的にも位置づけられていたにもかかわらず、その実態は何ら改善されず、むしろ他産業労働者と比較しても劣悪になっています。

三池では、昨年一月末の三池大災害賠償請求裁判の和解打診に伴う諸問題で一年間が過ぎました。

このような中で、あの「総資本対総労働のたたかい」であった三池闘争から二十五年目に当たり、三池闘争二十五周年記念交流集会を開き、この集会に黒川総評議長や橋本炭労委員長をはじめ、当時の指導者であった太田、岩井氏など多くの闘士が出席され、交流集会を成功のうちに終えましたことを心からお礼申し上げます。

さて、今年は炭鉱労働者にとっての最大の運動課題は、第八次石炭政策闘争と衆・参議院選挙です。

石炭政策闘争は内、外炭価差問題、重油関税の撤廃、保安問題と、どれをとっても厳しい情勢のもとにあり、衆・参議院選挙は中曽根首相が「戦後政治の総決算」という軍事大国化をめざす反動政策強行のもとでたたかわれます。

このような政治情勢の中で、私たちは平和と民主主義、生活を守るために、衆・参議院選挙を勝利しなければなりません。

さらに、当面の運動課題であるCO裁判での和解のたたかいや、今後の反合理化闘争を積極的に進め、炭鉱労働者とその家族が安心して働ける職場環境や生活環境をつくりあげるために頑張ることをお誓いして、新年を迎えてのごあいさつといたします。

一人一人が自覚しすべての運動に

主婦会会長　平川弘子

新年あけましておめでとうございます。

昨年は三池闘争二十五周年に当たり、三池闘争二十五周年記念交流集会が開かれました。この中で私たちは、諸先輩との交流を通じてあらためて三池の労働運動の意義と教訓を学び、知ることができました。

三池闘争が果たした役割りは大きく、三池の労働者が全国の労働者のたたかうエネルギーを引き出し、安保闘争を高揚させ、現在も全国各地でたたかう労働者の中に受け継がれています。資本主義社会では、たたかいつづける以外に生命や生活を守ることはできないという励ましを受けると同時に勇気を得ることができました。

中曽根内閣は「戦後政治の総決算」を標ぼうして、医療、社会保障などの福祉を切り捨て、教育の国家統制などの大幅改悪や国鉄分割・民営化などの攻撃、さらに臨調行革を強行し、国民生活を犠牲にしながら軍事大国化への道を突き進んでいます。

核と戦争への道を阻み、平和を守る運動をさらに強めなければならない時だと考えます。

国連婦人の十年は終りましたが、引きつづきあらゆる差別をなくし、人間らしく生きるために女性の地位向上をめざし、二十一世紀へ向けての第一歩を踏み出す年でもあります。

まわりの婦人と連帯しながら、主婦会員として一人ひとりが自覚し、生命と暮らし、平和を守る運動を進めてまいりましょう。

今年も、主婦会運動に暖いご指導とご鞭撻をいただきますよう、よろしくお願いして新年のあいさつといたします。

＊　＊